

八幡図書館活用2案

市民団体が具体的提案へ

小倉タイムス
2016.4.21

「景観と住環境を考える
全国ネットワーク」と「村
野藤吾と産業遺産のまち・
八幡たてももの応援団」共催
のシンポジウム「世界遺産
と八幡の都市・建築・歴史
その魅力をどう活かすの
か」が4月17日(日)午後
八幡東区の「レディスやは
た」(八幡市民会館横)で
開催され、約1000人が参
加した。

村野藤吾設計の八幡図書
館、八幡市民会館ともに既
に閉鎖されており、市は4
月22日に旧九州国際大学文
化交流センター内に八幡図
書館を移転しオープンする
予定。その後、旧図書館は
解体するとしている。
主催団体の1つ、同応援
団メンバーで建築士の大橋
智子さんは、旧八幡図書館
の具体的な活用策を提案。

近く、北橋健治市長や市病
院局長、市議会等に提案書
を渡し、建物保存にむけて
再考を促したい意向を示し
た。

シンポジウムでは、前内
閣官房参与で弁護士五十
嵐敬喜・法政大学名誉教



会場一杯となったシンポジウム

授と、市原猛
志・九州大学助
教、元在オラン
ダ大使の東郷和
彦・京都産業大
学教授の3人が
八幡に残る近代
化遺産をどう活
かすのかを講演
し、「ストーリー
ー性や永続性が
大事」など提案
した。元外交官
の東郷さんは浜
松市での建物保
存を求めた事例
を紹介し、「共
通するものがあ
る。繰り返して
もらいたくな

逃れるということなので、
日本でさえなければどの国
でもオーケーの朝鮮王室は
この期間にかなりな利権を
アメリカ・イギリス・フラ
ンスなどにも与えている。
しかし、「列強」なんぞと
いうものは、結局は日本と
同じ穴のムジナと悟ったの
か、昌徳宮に還御してから
は日本も入れて適当にばら
撒いたようだ。

朝鮮王宮が1896年
1904年までに諸外国に
認めた利権の一覧表をなが
めてみると、ロシア以外は
鉄道敷設権というのが目立

い」と話した。司会は、建
築家の末廣香織・九州大学
大学院准教授が務めた。
大橋さんが示した、八幡

図書館活用案は2つ。官営
八幡製鐵所本事務所が昨
年、世界遺産に登録された
が、「八幡の街は活気づい
ていない」として、「鉄と
世界遺産の街を感じさせる
駅前」つくりを提案し、同
図書館を「鉄と産業遺産・
近代化遺産ビクターセンタ
ー」として活用する案を展

ッテのものですでにシベリ
ア鉄道の建設が起工されて
おり、李鴻章との露清同盟
密約(1896年)で東支
鉄道敷設権を得ているの
で、朝鮮まで手を伸ばす必
要はなかった。それにし
ても乗客からの乗車運賃収入
にそんなに列強が目の色を
変えるとは思えない。この
東支鉄道敷設権が日露戦争
を招くのであるから、血を
血で洗う欲得の見返りは何
なのかしつかり知っておく
必要がある。

「鉄道」とは地面の上に
2本のレールを敷いてその
上を走る。また、横に建設される
新八幡病院との連携を踏ま
え、困難な病と闘う子ども
たちを支える「ファミリー
ハウス」も提案。近年、保
険会社などが運営する事例
も増えている。両案とも各
フロアの活用も示した。
費用面については、公共
施設を民間事業者が活用す
るので、行政は家賃収入が
得られるとし、多額の税金
投入ではない手法も紹介し
た。